

令和8年1月9日

“サプリメント形状は誤認リスクが高く、通常食品では低い” 食品の“見た目”に加えて、健康強調表示の“表現パターン”が決め手 食品形態に応じた柔軟な表示パターン選択の可能性を示唆

福島大学食農学類の種村菜奈枝准教授は、“サプリメント形状（注1）は誤認リスク（注2）が高く、通常食品では低い”ことに加え、食品の見た目（食品形態）だけでなく健康強調表示（注3）の表現パターンも消費者の誤認リスクに関連することを明らかにしました。これらの結果から、健康強調表示を“一律に画一化する”ことが必ずしも適切ではなく、食品形態に応じた柔軟な表現パターン選択の可能性が示唆されました。この成果は事業者の販売戦略や、規制当局側の判断等での活用が期待されます。

本研究成果は、2026年1月1日に食品科学と栄養の専門雑誌である国際ジャーナル「Nutrition and Food Science (NFS)」へオンライン掲載されました。

（注1）一般的に、医薬品に類似した外観を持つ食品の形態を指す。医薬品的イメージを抱かせやすく、表示の書き方によっては誤認リスクが高まりやすいことが指摘されている。

（注2）食品や成分の機能を、医薬品の効果のように誤って受け取ってしまう可能性のこと。

（注3）食品や成分がわたしたちの健康にどのように役立つかを言葉で伝えるための表現。

◎ 今回の成果のポイント

- ✚ 機能をうたう保健機能食品の食品形態がサプリメント形状の場合、健康強調表示において直接的な表現パターンは医薬品的イメージを強める一方、曖昧な表現パターンは、誤認リスクを回避する上では有効であることがわかりました。
- ✚ 一方、通常の食品形態（例：ヨーグルト）であれば、どの健康強調表示パターンを使用しても誤認リスクが生じる可能性は低いことが明らかになりました。
- ✚ この結果は、健康強調表示を“一律に画一化する”ことが必ずしも適切ではなく、食品形態に応じた柔軟な表現パターン選択の可能性を示唆しています。
- ✚ 食品の見た目を踏まえた表示設計とすることで、より表現の多様性を確保しつつ、消費者の誤認リスクを抑えた情報提供が可能になることが示されました。

◎ 研究の背景

食品パッケージに記載される健康強調表示は、私たちの食品選びに大きな影響を与えます。しかし、食品の“見た目”や“ことばの選び方”によっては、食品の働きを医薬品の効果と誤って受け取ってしまうことがあります。こうした誤解がなぜ起きるのかは、十分に解明されていませんでした。そこで本研究では、食品の“見た目”や“ことばの選び方”が、消費者の誤認にどの程度影響するのかを明らかにすることを目的としました。

◎ 研究の方法

消費者 900 名を対象に 3 種類の整腸系の健康強調表示“表現パターン”のうち、いずれかのグループにランダムに割当て、健康強調表示に対する認識をインターネット調査しました。

用語解説

－ 保健機能食品とは

保健機能食品とは、国が定めた安全性や有効性（効き目）に関する基準などにしたがって食品や成分の機能（つまり、はたらき）が表示（例：便通を改善する）されている食品です。保健機能食品には、「栄養機能食品」、「特定保健用食品」、「機能性表示食品」の 3 種類があります。これらの食品以外の食品は、食品や成分の機能を表示することができません。

－ 健康強調表示の“表現パターン”とは

健康強調表示に用いられる、食品や成分の機能の“伝え方の種類”のことを指します。本研究では、次の 3 つに分類しました。

（1）直接的な表現：食品や成分の機能を具体的に示す表現。

例：「便通を改善する」

（2）概念的な表現：食品や成分の機能を概念で伝える表現。

例：「おなかの調子をととのえる」

（3）組合わせ表現：直接的な表現と概念的な表現を併用した表現。

－ 食品形態とは

「食品」がどのような物理的な形で提供されているかを指します。

例：通常食品：ヨーグルト、バナナ、クッキー

サプリメント形状：錠剤、カプセル、粉末、顆粒

◎ 論文情報

- 掲載雑誌：
Nutrition and Food Science
- 発表タイトル：
Influence of Health-Claim Formats on Consumer Perception in Supplement and Yoghurt Products: A Randomized Controlled Study in Japan
- 発表者：
Nanae Tanemura (Fukushima University)
- URL (DOI)
<https://doi.org/10.1108/NFS-03-2025-0091>

◎ 研究支援

本研究は、ロツテ財団 奨励研究の助成により実施されています。

◎ 報道機関関係者の方々へのお願い

記事の際には「福島大学の研究成果」であることを明記いただくと幸いです。

(お問い合わせ先)

【研究に関すること】

福島大学 食農学類

准教授 種村 菜奈枝

電 話：024-503-4978

メール：ntane@agri.fukushima-u.ac.jp

(種村研究室ホームページ)

<https://www.foodrs-lab.com/>

【広報に関すること】

福島大学 総務課広報係

電 話：024-548-5190

メール：kouho@adb.fukushima-u.ac.jp